

# タニウム、AI時代のIT・セキュリティ運用を変革する 「Tanium Atlas」を発表

～リアルタイムのインテリジェンス、ガイダンス、アクションを単一のエクスペリエンスへ統合する  
新世代の自律型オペレーティングシステム～

2026年5月5日 カリフォルニア州エメリービル発、2026年5月5日

AIを活用した自律型IT «Autonomous IT» のリーダーであるタニウム（日本法人本社：東京都千代田区、代表執行役社長：原田英典、以下タニウム）は、は本日、Tanium Atlasを発表しました。これは、これまでチーム全体で取り組んでいた業務を、IT・セキュリティ担当者がひとりで完遂できるようにする自律型オペレーティングシステム（OS）です。意図（インテント）から成果（アウトカム）までを、単一かつガバナンスの効いたエクスペリエンスの中で実現します。

Tanium Atlas は、完全（complete）、高精度（high-fidelity）、リアルタイム（real-time）、拡張可能（extensible）なエンドポイントデータ基盤の上に構築されています。すなわち、環境内のあらゆるデバイスを網羅し、データを発生源から直接取得し、数秒で回答し、あらゆるモデル・エージェント・ワークフローと連携できる拡張性を備えています。このデータ基盤こそが、AI時代のITとセキュリティにおける新たな標準となります。

今回の発表は、サイバーセキュリティが構造的な転換点を迎える中で行われたものです。AnthropicのClaude MythosやOpenAIのSpudをはじめとするフロンティアAIモデルは、脆弱性の発見から、武器化された攻撃（エクスプロイト）が成立するまでの時間を、数週間から数分へと劇的に短縮しました。事後対応型（リアクティブ）でモジュールベースのツールでは、もはやこのスピードに対応しきれません。静的なダッシュボードと分断されたワークフローの上に構築されたプラットフォームは、今やリスク要因となりえます。Tanium Atlasは、まさにこの瞬間のために設計されました。

Tanium Atlasは近日提供予定（Coming Soon）です。

「MythosやSpud、そしてそれらに類するモデルは、攻撃の作成を産業化しました。悪意ある攻撃者の経済的なハードルを下げると同時に、リスクの規模と深刻さの両方を拡大させています。これは段階的な変化ではな



「根本的な変化です」と、Tanium 最高執行責任者（COO）の Matt Quinn は述べています。「『それなりに実施できているレベル』のパッチ適用は、もはや十分とは言えません。IT・セキュリティのリーダーは、この現実に向き合う必要があります。Tanium Atlas はそれに対する我々の答えです。数百万のエンドポイントにまたがるリアルタイムのインテリジェンス、常時稼働するアンビエントエージェント、そして『後手に回る』のではなく『先手を取る』ことを支援するために設計されたエクスペリエンスを提供します」

固定的なモジュールと直線的なワークフローを中心に構築された従来のコンソールとは異なり、Tanium Atlas は個人（the individual）を中心に構築されています。ペルソナや役割ではなく、いま画面の前にいるその人を中心に据えています。Tanium Atlas 自律型オペレーティングシステムは、その瞬間に最も関連性の高いデータ、ビジュアライゼーション、アクションを浮かび上がらせるページを動的に生成します。同時に、システムレベルで稼働するアンビエントエージェントが環境を観察し、ユーザーが問いかける前に、重要な情報を先回りして提示します。

Tanium Atlas は、OpenAI、Anthropic、Google などの主要な AI モデルを厳選して組み合わせた構成（アンサンブル）の上で動作します。差別化の源泉となるのは、Tanium のデータレイヤーです。世界中の 3,600 万を超えるエンドポイントにわたり、Tanium は広範なエンドポイントシグナルを高精度かつリアルタイムで取得し、それらをオープンな API および MCP を通じて公開します。これにより、Tanium 製であれ顧客のものであれ、あらゆるエージェントがそのデータをもとに推論し、行動することが可能になります。今日、これほど深いリアルタイムのエンドポイントコンテキストを単独で提供できる基盤モデルは存在しません。Tanium Atlas は、Tanium 自律型 IT プラットフォーム（Tanium Autonomous IT Platform）の上に構築されています。同プラットフォームは、2026 年 Gartner® Magic Quadrant™ エンドポイント管理ツール部門のリーダーであり、また「IDC MarketScape: Worldwide Client Endpoint Management Software for Windows Device Management 2025–2026 Vendor Assessment」においてもリーダーに位置づけられています。

「Tanium は、いかなる AI モデルも単独では再現できないものを、20 年近くにわたって築き上げてきました。それは、世界で最も複雑な環境のいくつかにまたがる、リアルタイムで正確なテレメトリです。このデータの深さこそが、Tanium Atlas を実現可能にし、そしてそれを強力なものにしています」と、Tanium 最高技術責任者（CTO）の Harman Kaur は述べています。「Tanium Atlas は、個人により賢いインターフェースを与えるだけではありません。ユーザーが取るすべてのアクションの背後に、そのインテリジェンスのすべてを注ぎ込みます。マシンが規模（スケール）に対応し、人間は重要なことに集中し続ける。これは我々がこれから目指す姿ではなく、長年にわたって築き上げてきたものそのものです」 Tanium Atlas の詳細については、こちらをご覧ください: [www.tanium.com/blog/tanium-atlas-ai-that-doesnt-just-answer-it-executes/](http://www.tanium.com/blog/tanium-atlas-ai-that-doesnt-just-answer-it-executes/)

## ■タニウムについて

タニウムは自律型 IT «Autonomous IT» 企業です。AI とリアルタイムのエンドポイントインテリジェンスを駆動力として、IT およびセキュリティチームが組織を止まることなく前進させる力を提供します。タニウムの自律型オペレーティングシステムである Tanium Atlas は、IT およびセキュリティのオペレータに、かつてはチーム体制を必要としていた業務を遂行するためのデータ、ガイダンス、そして広範なリーチを提供します。

タニウムは、2026 年に初めて発表された Gartner® Magic Quadrant™ for Endpoint Management Tools においてリーダーに位置付けられ、また IDC MarketScape : Worldwide Client Endpoint Management Software for Windows Device Management 2025–2026 Vendor Assessment においてもリーダーとして選出されています。

世界有数の組織の多くが、エンドポイント管理とセキュリティのための単一の統合プラットフォームとしてタニウムを信頼し、より速いイノベーション、強靱な事業継続、そして確信を持ったビジネスの前進を、大規模に実現しています。

タニウムがどのように自律型 IT «Autonomous IT» でアンストップナブルなビジネスを実現しているかについては、<https://www.tanium.jp/>と [LinkedIn](#) をご確認ください。

日本法人名：タニウム合同会社

グローバル代表 CEO：ダン・ストリートマン

日本代表執行役社長：原田英典

設立年：2007 年

設立年（日本）：2015 年

所在地（日本オフィス）：〒100-0004 東京都千代田区大手町 2 丁目 6-4 常盤橋タワー 25F

事業内容：自律型エンドポイント管理のプラットフォーム提供

URL：<https://www.tanium.jp/>

## ■免責事項

ここに記載されている情報は一般的な情報提供のみを目的としています。本情報は、当社が将来の製品、特徴、または機能を提供することについて確約、保証、申し出、および約束を行うものでも、法的義務を負うものでもありません。また、いかなる契約にも組み込まれることを意図しておらず、そのように見なされるものでもありません。最終的に提供される製品、特徴、または機能の実際の時期は記載されているものと異なる可能性があります。

©2026 Tanium Inc. All rights reserved. Tanium は Tanium Inc. の登録商標です。その他の社名、製品名、サービス名は各社の商標または登録商標です。